伝統を刻み、未来を拓く
― 揖斐川中学校の「道」 ―

3月6日、第66回卒業証書授与式を行い、88名の卒業生が学び舎を巣立っていきました。令和7年度前期生徒会長（棚橋慶士さん）、後期生徒会長（田宮花音さん）が揖斐川中学校の紹介をしました。

【前期】学年の壁を越えた「団結の輪」

生徒会スローガンに掲げた「道～切り拓く・共に歩む～」には、一人一人が自分の役割を自覚し、仲間と手を取り合って新しい可能性を切り拓いていこうという強い決意が込められています。この想いを全校に浸透させるため、特に「学年を越えたつながり」を重視した活動に注力しました。その象徴となったのが、今年度の体育大会の新種目「いびが輪バレー」です。

異学年混合チームで円陣を組んで行うバレーボールですが、作戦会議では上級生が下級生に優しくコツを教え、下級生はそれに応えようと必死にボールを追うといった「共に歩む」姿がありました。この大会を機に、自分たちの手でつくり上げた「縦の絆」が学校の大きな強みとなっています。

【後期】宝物のような伝統を、社会へ、未来へ

前期に復活した「全校合唱」の歌声を引き継ぎ、後期ではその伝統をさらに深める活動が進んでいます。特に2年生の「合唱向上部」を中心に、「伝統を確かめ合う会」に向けて全校生徒が一体となって練習に励む姿は、今の本校の誇りです。自分たちの手でよいものをつくり、残していこうとする姿勢は、まさに「宝」と言えます。

また、生徒会執行部からの提案で、「使い捨てカイロを回収し、水質浄化剤に役立てる」という社会貢献活動をスタートさせました。驚いたのは仲間の意識の高さです。呼びかけに対し、2161個のカイロが集まりました。

「誰かのために、自分にできることはないか」と自発的に行動できる仲間がいること。この温かな気持ちが、揖斐川中学校の未来を照らす財産になると信じています。私たちが築いてきたこの「道」を、これからも大切につないでいきたいです。

授業改革に挑戦する北和中学校

本校では令和7年度から、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けて、教師主導の一斉授業から脱却し、「生徒主体の探究と協働的な学び」に向けた取組を進めています。

1 聴き合い、学び合いを目指す授業

日々の「学び」を学校経営の中心に据え、授業改革に着手しました。「分からない」を出発点として、協働的な学び合いを目指していますが、ようやく教師主導の授業プランから生徒主体の授業デザインにする意味を、生徒とともに理解できつつあります。生徒たちの学びの変容に触れながら、教師も授業づくりの楽しさを感じることができるようになってきました。

2 未来社会に必要な能力の育成

今、求められている「個別最適な学び」と「協働的な学び」を大切にしながら、未来社会をたくましく生き抜く生徒の育成に向けて、授業での学び方を小中でも連携して取り組んでいけると、「中一ギャップ」の軽減にもつながると思います。①場所や集団に関係なく ②個人課題と選択をもとに ③自分の目標に向かって ④自分のペースで ⑤仲間と協力しながら ⑥自分から学ぶ といった主体的・協働的な学び（授業デザイン）を、小学校からの系統性も含めて、今後追究していきます。

3 「三つの伝統」の確実な継承

生徒同士の強いつながりを生み出すためには、生徒会活動の充実が鍵となります。

「挨拶」「掃除」「歌声」の3つの伝統を大切にすることの根底には、「北和魂」があります。こうした先輩方から受け継いだ伝統を根付かせ、さらに質を高め、自分たちの生活を自らの手でよりよいものにし、互いのつながりを強くしていきたいと思います。

今後の課題は、授業や生徒会活動を通して、「生徒同士の強いつながりを生み出すこと」です。そのため、授業では、「つながる」必然がある課題設定にすることや、日頃から「つながる」ことにこだわって生活を楽しむことの2点を意識し、継続した研究実践を進めていく所存です。

学校教育の在り方審議会「幼児園保護者との意見交換会」（報告）
（いび幼児園、やまと・きたがた幼児園、きよみず幼児園、おじま幼児園、たにぐみ幼児園）

町内7か所で実施した「学校教育の在り方審議会・地区集会」の中で、これから小中学生の保護者となる皆さんを対象に意見を聞かせてもらってはどうかという提案をいただきました。

今回は、これを受けて開催した「幼児園保護者との意見交換会」について報告します。

幼児園	日時	参加者数
やまと・きたがた幼児園	2/16（月）15：00～	31人
きよみず幼児園	2/17（火）15：00～	16人
おじま幼児園	2/25（水）15：00～	24人
いび幼児園	2/26（木）15：00～	23人
たにぐみ幼児園	3/6（金）15：00～	25人

1 主な意見内容

〔登下校の安全確保について〕

・居住地区に子どもが少ないことで低学年だけでの登下校になってしまうこと、夏の酷暑やクマが出る時間帯の下校となることなどが心配される。

＜やまと・きたがた幼児園での意見交換の様子＞

・この先もし小学校を統合した場合に通学距離が長くなるため、交通安全や防犯対策としてスクールバスの導入を希望する。

〔教育の内容や学校環境について〕

・子どもたちに自発的・自主的に行動できる力が身に付くよう、現在、幼児園や小学校で取り組んでいる活動を充実させてほしい。

〔学校の規模について〕

・子どもたちの人間関係に幅をもたせるには一定程度の児童生徒数や学級数が必要ではないか。

・1学年1学級では、子どもたちは人間関係がうまくいかなくなると困難さを引きずってしまうことになるのでクラス替えができる環境を整えたい。

・少人数の学級のよさもある。先生方も子どもたち一人一人に目が行き届いているのではないか。

・子どもたちにとっては、人数が多過ぎても少な過ぎても問題は生まれる。どの程度が適切かは難しいため、十分検討してもらいたい。

・広報誌やホームページでの学校教育の在り方に関する検討の様子を読ませてもらっている。引き続き情報発信をお願いしたい。

2 各幼児園における特徴的な意見

〔やまと・きたがた幼児園〕

・小学校に入学するときには、大和小学校と北方小学校に分かれ、その後、中学校に入学すると再び北和中学校で同じ学校に通うことになるという現状を解消してもらいたい。

〔きよみず幼児園〕

・今年度から複式学級編制となった小規模の清水小学校に入学し、その後大規模校の揖斐川中学校に進学することになる。こうした環境の変化が子どもたちにとってどのように影響しているのか気になる。

〔おじま幼児園〕

・今年度から春日小学校に通っていた子どもたちは小島小学校で生活することになった。統合による不安や問題もあったが今では楽しそうに過ごしていることを嬉しく思う。今後もし学校統合を行うのであれば、統合前の学校間交流はとても大切になる。

〔いび幼児園〕

・自分自身も小規模であることのよさを求めて揖斐川町に移住しており、「先生の目が行き届いていること」「小規模ならではの深い関係性」などといった小規模のメリットをアピールしていく方がよいのではないか。

〔たにぐみ幼児園〕

・さまざまな点で同じ立場にいる同学年の子どもが少ないことにより、高校等への進学時にギャップを感じたり、関係性の構築方法が分からなかったりするといった問題が起きるのではないかなどの不安がある。

3 今後の審議の見通し

令和8年度は、年5回の会議を行い、1月に答申を提出する予定です。その間、他市町村の取組みや学校等の視察も計画しています。

これからの学校教育については、子どもの育ちを中心に据え、少子化等の社会の変化に対応した教育内容や、地域とのつながりを大切にした教育活動等が具現できる環境を整えていく必要があります。今後とも町民の皆さんと一緒に検討を進めていきますので、ご理解と協力を宜しくお願いします。

（揖斐川町学校教育の在り方審議会）